

部名	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (H29,3月)			次年度への課題
進路指導部	進路指導	生徒一人ひとりに、進路に対する明確なゴールを持たせて、自分に合った目標を設定し、実現に向けた指導を行う	通常授業の取り組みが生徒の進路選択の意識付けに繋がるような指導を行う	B	B	B	≪平成28年度 進路状況≫ [進学] 希望者11名 決定者11名 未定者0名 決定率100% [就職] 希望者16名 決定者13名 未定者2名 決定率81% 早い時期から進路希望を明確にしていた生徒は、保護者の了解、受験準備、進路決定のペースが早かった。 例年実施している2年生での「進路面談」を充実させて、3年生で実施する「保護者対象進路説明会」では尚早に保護者の了解を得たいと考える。 また、職業訓練校など、公的機
			保護者への進路説明会を5月に実施する	A			
			進路決定を目標にした学習指導を行う (一般常識や小論文指導、面接指導など総合的な取り組み)	A			
			1人ひとりの進路達成に向けた対外模試を実施して、結果を活用して三者面談を行い、納得のいく進路目標を決める	B			
		教員も積極的に新しい情報入手し、生徒へ提供することで、生徒の進路達成に向けた指導に役立つ	生徒の自主的な進路決定を促すため、多方面から届く膨大な資料を優先度の高い順に整理して提供する	A	A		
			進路指導室の解放、求人票の公開、進学資料のとりまとめなど、生徒への情報公開を積極的に行う	A			
		生徒が設定した進路目標を、現実的に捉えるような機会を頻繁に持たせる	具体的な進路内容について、自主的に検索して活用できるようにする	B	B		
			図書館とパソコンを有効に活用して、生徒自らが進路に関する最新情報を入手できるよう指導する	C			

部名	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (H29,3月)			次年度への課題
教務部	日常業務の遂行	学校全般の日常業務を正確に遂行し、必要に応じて改善を実施する	各部(教務・指導・進路)間の連携を密にして、日常業務を迅速かつ円滑に遂行する中で協働体制の確立を目指す	A	A	B	総合評価を『B』とした理由は、今年度に【最重要課題】として位置づけた「生徒の分かる授業」の展開が不十分だったように思われるからである。例えば、公開授業を計画していたが実施できなかったこと、年間指導計画の詳細に関して教科間で協議の機会を持てた教科と持てなかった教科の混在など、次年度に実施しなければいけない課題が散在する結果となった。
			教務部内の業務内容や業務分担を見直して効率化を図る	A			
	教科指導の充実	教育課程の徹底と考查点・平常点を加味した評価により、生徒の学習意欲を喚起させる授業を行う	新教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解を深める	B	B		
			教育内容・各科の編成内容・学校行事等の見直しと精選を行う	A			
			【最重要課題】「生徒のわかる授業」をめざして教材研究を徹底し、公開授業等を実施して教員の指導力向上を図る	B			
	教務システムの見直し	コンピュータを活用して、業務の効率化を図る	学籍処理や成績処理システムを教務部作成のコンピュータで一括管理し、成績表や出欠状況などの公式提出書類の書式を見直す	A	A		
			校内文書・学外文書ともに、書類作成後は提出前に教務部を通してから管理職決裁を伺う体制を徹底する	A			